



えち ぜん

越前海岸の水仙畑

ぬか

糠の文化的景観

No.18-03

所在地：福井県南越前町

選定年月日：令和3年3月26日

面積：552.4ha

選定基準：一(一)

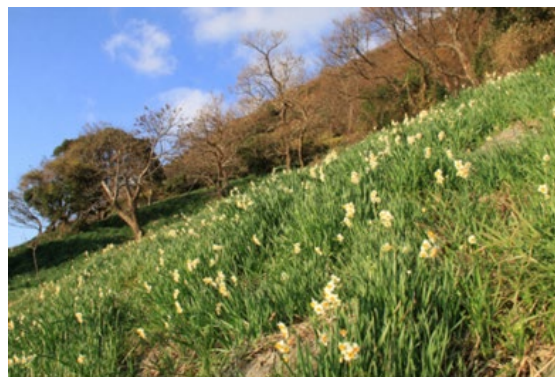
(1) 概要

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生(にゅう)山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を形成しています。暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生しています。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境です。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきました。

冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようですが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させてきました。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観です。

この最南部、南越前町糠地区では、国道沿いの直線的な断層崖に形成された水仙畑を特徴とします。これは、養蚕や杜氏等の各種副業の盛衰の歴史を表すものであり、水仙畑を引き継いだ杜氏集落と対を成すものです。

越前海岸における人々の暮らしを理解する上で欠くことのできない景観として重要です。



国道沿いの断層崖に広がる水仙畑



断層崖に形成される水仙畑での作業風景



狭小な谷筋に家を並べる糠集落



酒造の神を祀る松尾神社の境内に建つ杜氏功労碑

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：11件

（３）選定による効果

集落では人口減少や少子高齢化、空き家の増加、獣害への対応、自然災害の発生などの多岐にわたる課題が顕在化しており、水仙畑の維持や水仙栽培の継承に向けた担い手不足が深刻化しています。

選定を契機として、その本質的価値を将来にわたって継承し、歴史的・文化的な資源を生かした地域づくりを推進するため、周辺の自治体および地域住民とともに地域内外に向けた情報発信や人的交流の活性化などの取り組みを行っています。



水仙畑の整備
（特務艦関東遭難慰霊碑公園）



「福井ふるさと百景活動団体」として
南越前町糠地区が認定

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 越前海岸の水仙畑 文化的景観保存調査報告書（平成31年3月、福井県・福井市・越前町・南越前町）
- 越前海岸の水仙畑 糠の文化的景観 保存活用計画（令和2年7月〔令和3年1月改訂〕、南越前町）
- ホームページ
<https://www.town.minamiechizen.lg.jp/kurasi/103/128/p003510.html>

（５）活用事例

事例18-01～03 ①

人と人、人と景観をつなぐローカルフォトプロジェクト

●行政による取り組み

地域に眠っている魅力や、地域の抱える課題を見つめ直し、カメラと写真の力を借りて課題を価値として生まれ変わらせる「ローカルフォト」の取り組みが全国各地で行われています。

福井市と越前町、南越前町では「ローカルフォトスクール」と題した座学と撮影取材実習を開催し、ローカルフォトの概念や方法、他地域での事例などを学びながら、地域の魅力・課題を発信する人材の育成を行っています。取材・発信を通して、越前海岸の水仙畑に関する認知度向上、水仙農家をはじめとした地元住民のシビックプライドの醸成、地域課題の共有と解決を目指します。

またローカルフォトスクールを受講したメンバーがローカルフォトグループ「越前水仙カメラ」を結成し、四季折々の生活・生業の撮影・取材、SNSなどによる発信を行っているほか、フォトブックやポスターを作成し、新たな視点から水仙畑の魅力が伝えられるよう活動しています。さらにメンバーが生業継続を自分ごととして認識するようになり、営農支援などにも活動の幅が広がっています。

団体等情報： 福井市ホームページ

<https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/bunka/bunkazai/lps.html>

越前水仙カメラ <https://echicame.site/>



水仙畑でのローカルフォトスクール



水仙農家さんはローカルヒーロー！



地質や植物、建造物などを探求する
ローカルラーニングツアーも開催



越前水仙カメラポスター

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり

（５）活用事例

事例18-01～03 ②

3市町・水仙農家などによる文化的景観保存活用のための協議会

●行政と住民等の協働による取り組み

重要文化的景観の一体的な保存活用に取り組む福井市、越前町、南越前町では、選定後に、3市町と地域団体、農家団体、観光関係団体による「越前海岸の水仙畑の文化的景観保存活用連携協議会」を結成しました。福井県のオブザーバー参加を得て、例年8月に総会を開き、事業に関する議論や水仙農家の担い手不足や獣害などの共通する課題についての情報交換を行い、それに基づいて9月～3月にかけて連携事業を推進しています。

具体的にはローカルフォトプロジェクト事業（事例18-01～03①参照）や、広域ガイドマップ作成・映像制作による情報発信、案内サインの統一などを通して、認知度向上を図り、越前海岸の水仙畑のブランドイメージを醸成することに努めています。

また水仙農家や有識者を講師にして、草刈り・水仙収穫・石積みなど、水仙栽培に必要な作業を学ぶ「文化的景観守り人育成事業」などを実施し、担い手不足・関係人口の増加を図っています。

今後も、地域振興や営農発展について総合的に議論できる場となるよう組織を発展させていきたいと考えています。

団体等情報：越前水仙カメラ <https://echicame.site/>

地域：越前公民館、上岬地区を良くする会、糠区
 観光：越前イメージアップ推進協議会、越前町観光連盟、南越前町河野観光協会
 農家：こしの水仙部会、越前町すいせん部会、河野水仙出荷組合
 行政：福井市、越前町、南越前町
 オブザーバー：福井県
 （事務局は行政の担当部署が2年毎に持ち回り）

協議会構成団体



水仙収穫体験（文化的景観の守り人育成事業）



水仙畑の下の草刈り体験（文化的景観の守り人育成事業）



越前海岸の水仙畑ガイドマップ作成

水仙収穫体験参加者（地域外在住）の声

写真や映像でよく見る景色ですが、実際に来てみると迫力が違いました。足が竦むような場所を畑にして作業している農家さんたちはすごい。この景観を残してほしいです。

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人育て

(5) 活用事例

事例18-03 ③

若い世代に向けた文化的景観の歴史・魅力発信 ～教育現場（中学校ふるさと学習）との連携～

●行政と住民等の協働による取り組み

選定後、町の文化財部局が校長会など教育現場・関係者に働きかけ、地元中学校において、「越前水仙の価値（文化的景観）と越前水仙復興に関わる取り組みについて知り、ふるさとを愛し、誇りに思う心を育成する」ことを目的とし、文化的景観を主題としたふるさと学習が実現しました。

当日は、水仙農家より水仙の保護および水仙と文化的景観を生かす地域振興について、教育委員会より水仙栽培の歴史と重要文化的景観についての講話を行い、生徒は越前水仙と文化的景観の理解を深めました。また講話後には、水仙農家指導のもとで球根の鉢植え体験を行いました。

集落では高齢化による水仙農家の担い手不足が課題となっており、今後とも若い世代に向けた様々な働きかけを行っていく必要性を改めて実感しました。

参加生徒の声

ふるさと学習で越前水仙について詳しく教えてもらいました。越前水仙は、日本三大水仙群生地の一つで、国の重要文化的景観に選定（花の栽培地の文化的景観としては全国初）されていることを初めて知りました。また、水仙は集落の人々の暮らしと歴史に密接に関わりがある身近なものであることに驚きました。



文化的景観を主題としたふるさと教育



水仙農家による講話



水仙球根の鉢植え体験



鉢植え後学校前にて栽培

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源と
運用

⑥ 人づくり・
人づくり